

# シャンプーのこと もっと知りたいQ&A



## Q. シリコンが配合されているシャンプーは問題?

**A. シリコンはとても安全な成分ですが、シャンプーに入れるのは危険です。**

シャンプーの宣伝で、ノンシリコンシャンプー、というキャッチフレーズをよく聞くようになりましたが、シリコンがどういった成分で、何の目的で配合されているのかを、きちんと伝えるような宣伝は見当たりません。

髪がギシギシしたり、原料臭の強いシャンプーで髪を洗いたいとは思わないでしょう。そのため、シャンプーの使用感を向上させる工夫は古くから試みられ、最近では非常に多くの成分が配合されるようになりました。

現在では、シャンプーに含まれている「水」と「洗浄剤」以外のすべての成分は「感触」を改善する目的で配合されているといっても過言ではありません。具体的には、洗浄後に髪に過度なツヤと柔軟性をもたせるための少量の油分や、コンディシ

ョニング効果をもったカチオン化セルロース（全成分表示ではポリクオタニウム）が代表としてあげられます。また、乾燥を防ぐために保湿剤としてグリセリンやBG、植物エキスなどが配合されています。さらに、香料もシャンプーにはなくてはならない成分になっています。

しかし、これらの成分によってシャンプーの洗浄機能が失われては意味がありません。過度の油分や保湿剤は、泡立ちを抑制したり、洗い流しの際に洗浄剤が髪に残留する危険性をはらんでいます。

なかでも、80年代頃より髪の保護成分としてヘアケア商品に配合されるようになったシリコン類は、高いコーティング機能をもっています。そのため、シャンプーに配合すると、本来洗い流すはずの洗浄剤が髪に留まってしまう原因となるため、

シャンプーにシリコンを配合することは、安全面・機能面どちらにも矛盾があります。

しかし、手触りがよくなる、髪がまとまるなど、手軽にシャンプーの感触を向上できるため、ドラッグストアなどで販売されているシャンプーの多くにシリコンが配合される傾向が見られるようになり、その当たり前といえる矛盾を解消したシャンプーが、ノンシリコンシャンプー、と話題になっているだけなのです。

ここで勘違いしてはいけないことは、シリコンが直接の刺激になることはないという点です。

ノンシリコンなどと大きく宣伝されているため、シリコン=悪、というイメージをもたれはじめていますが、決してそんなことはありません。シリコン類は高いコーティング機能（機能性）に加え、安定性が高く肌への刺激の少ない優れた成分です。

モアコスメティックスのシャンプーは、もちろんノンシリコンシャンプーです。でも、モアコスメティックスはシリコンを否定してはしません。肌への刺激がないシリコンは、トリートメントをはじめ、適した製品にはしっかりと配合し、その機能をしっかりと活用しています。



**バーデンス スカルプシャンプー** (アロマシリーズ・全9種の香り)  
500mlボトル 3,500円(税抜)  
400ml詰め替え用 2,500円(税抜)

**バーデンス スカルプトリートメント** (アロマシリーズ・全9種の香り)  
500gボトル 4,000円(税抜)  
400g詰め替え用 2,900円(税抜)

ナチュラル感や爽快感を感じたい時は……



爽やかなコスメティック調で癒されたい時は……  
心を落ち着けて気持ちを穏やかにしたい時は……  
ストレス解消・疲労回復でリラックスしたい時は……



コスメティック調や高級感を感じたい時は……



## モアコスメティックス株式会社が 第42回全日本美容技術選手権大会に ブース出展!

シャンプー、トリートメントをはじめとした安全・安心なモアコスメティックスの製品を、より多くの方に知っていただくため、モアコスメティックスは2014年10月21日に大阪で開催された全日本美容技術選手権大会にブース出展しました。

この大会は、全国の理美容師やエステシャン、美容学校の生徒らが出場し、その美容技術を競う大会です。日本の美容業界では最大級のイベントで、まさに全国の美容のプロフェッショナルたちが集う大会です。

すでにバーデンス製品をご使用いただいております。品質の違いを十分に実感していただいているベテランサロンオーナーから、バーデンスをまったく知らない

専門学校生徒まで、ブースには非常に幅広い層の方が来展され、バーデンス製品の魅力を知ってもらうことができました。

低刺激シャンプー剤を探されている方も多く、24時間つけっ放しでも刺激がないシャンプー・トリートメントのデータを紹介し、これらがシャンプー・トリートメント後のお客様の肌を保証することに、大変興味をもっていただけました。なかでも、お酢系洗浄剤の高い安全性をベースにつくられた9種類の香りを選べる「アロマシャンプー」「アロマトリートメント」には、多くの方が手をのぼし、その使用感、香りのパリエーションを実際に体験していただくことができました。

モアプレス  
**MORE x PRESS**

モアコスメティックス ☎0120-540-640  
HP <http://www.morecosmetics.co.jp>  
E-mail [info@morecosmetics.co.jp](mailto:info@morecosmetics.co.jp)

より強く、より美しい肌へ  
**Badens**  
モアプレス / バーデンス通信 VOL.24

# 皮膚刺激指数7.5のシャンプーはありえない。 シャンプーの安全性は洗浄剤で決まる。

数あるシャンプーの中から1本選ぶとしたら、何を基準に選べばいいのでしょうか。「安全・安心な洗浄剤を使用していることが何よりも大切」といっているモアコスメティックスが開発した洗浄剤は、肌まできれいになるシャンプーです。

## シャンプーで重要なのは ベース洗浄剤の安全性

いろいろな化粧品会社が「美容成分配合、ノンシリコン、など、シャンプー成分を製品の特徴として広告するようになってきました。シャンプーの成分と安全性についてモアコスメティックスの亀田宗一社長に詳しく教えてもらいます。

## シャンプーの配合成分についての宣伝広告が増えているように感じますが。

亀田社長 (以下略)「シャンプーの配合成分の特徴を消費者にアピールする宣伝が増えてきているのは事実です。成分ひとつひとつにこだわることは大事ですが、問題はベースの洗浄剤に何を使っているか、この洗浄剤でシャンプーの安全性は決まるのです。多くのシャンプーに使われている『硫酸系』(スルホン酸系も硫酸系)の界面活性剤は、洗浄力が強すぎて、必要な皮脂を洗い流し、細胞や髪のタンパク質を変性させてしまいます。肌あれや髪の毛のタンパク質を変性させることが知られて

いるにもかかわらず、安価で高い起泡性をもっているため、現在も広く使用されています」

## ——アミノ酸シャンプーは安全 と思っている人が多いですが…

「アミノ酸系の洗浄剤も決して安全ではなく、安全性が高いと説明する化粧品会社が多いことが問題です。アミノ酸系洗浄剤は起泡力の弱さを補う目的で、配合量を増やしたり、硫酸系洗浄剤と併用されて使われるため、肌あれやアレルギー発症のリスクと隣り合わせなのです」(P-2参照)

## ——いちばん安全な洗浄剤は?

「シャンプーに必要な機能は、洗浄力・安全性・感触面・環境性の4つです。洗浄力と安全性は相反する機能のため、4条件を満たすシャンプーを作るとは至難の業です。それを研究し達成したのは、世界中でモアコスメティックスだけ。

モアコスメティックスが開発したラウレス-3酢酸アミノ酸を配合した『バーデンス スカルプシャンプー』は、24時間パッチテストという、洗い流すものでは考えられない皮膚刺



激テストを実施し、刺激がないことが実証されています。洗浄剤が安全なお酢系であれば、シリコンやほかの成分にこだわる必要はないと考えています」

## 頭皮と毛髪チェックのため サロン専売品に

## ——バーデンスはなぜサロン専売品なのですか?

「バーデンスの安全・安心は、データとして証明されていますから、絶対の自信があります。専売品である理由の一つは、サロンがご使用いただいたお客様に安全・安心の保証をする、ということです。フィルムサンプルも準備していますから、購入前の最終確認もできます。二つめは、サロンでお買い求めいただく、次回来店時に、頭皮と毛髪のチェックをしてもらえ

るというメリットがあります。硫酸系のシャンプーを使用しているのは、肌はもちろん頭皮も毛髪も、きれいになっていくことは決してありません。ところが、シャンプーを替えるだけで、肌も髪もみるみるよくなっていくのです。それをお客様にお伝えるために、サロンがあります。

今後、それが瞬時にひと目でわかるように、バーデンスのシャンプーを使用する前に肌チェックを行い、肌が変わってきていることが証明できる肌診断を実施していくつもりです」

## ——目に見えるんですね。

「そうです。髪も肌もサロンで定期健診ができる……そんな時代になります。お酢系シャンプーに替えたことによって肌がよくなることを実感していただきたいと思っています」

## バーデンス スカルプシャンプー



250mlボトル 2,000円(税抜)  
500mlボトル 3,500円(税抜)  
400ml詰め替え用 2,500円(税抜)  
フィルムサンプル

No.	性別	年齢	肌質	部位	判定
39	M.K.	—	—	41	2
40	O.K.	—	—	48	2
41	Y.J.	—	—	42	2
42	Y.J.	—	—	36	2
43	K.A.	—	—	29	2
44	I.C.	—	—	41	2
45	W.S.	—	—	34	2
46	N.A.	—	—	55	2
47	S.H.	♂	—	39	2
48	S.H.	—	—	20	2
49	K.F.	—	—	27	2
50	T.Y.	—	—	61	2
51	K.R.	—	—	31	2
52	T.R.	—	—	18	2
53	T.F.	—	—	45	2
54	U.H.	—	—	32	2
55	K.A.	—	—	37	2
56	S.M.	—	—	38	2
57	S.M.	—	—	41	2
58	K.J.	♂	—	26	2

シャンプーを24時間つけっぱなしでも「+判定(明らかな紅斑)」以上の判定はなく、「±判定(わずかな紅斑)」が3名。一般のシャンプーでは計測不能となるため実施されることはない。



## バーデンス スカルプシャンプー 皮膚刺激指数: 7.5 (許容品)

18歳以上の男女20名で「24時間閉塞ヒトパッチテスト」を実施。専門の皮膚科医により紅斑や浮腫の度合いを判定・点数化し、皮膚刺激指数を算出。

皮膚刺激指数	判定
5.0以下	安全品
5.0~15.0	許容品
15.0~30.0	要改良品
30.0以上	危険品



# 全成分表示から読み取る シャンプーの特徴と刺激性を比較

全成分表示が義務づけられている化粧品。ですが、見たこともない成分が数十種類書かれていて、どう判断したらいいかわからない方が大半ではないでしょうか。ここでは、シャンプーを全成分で見分ける方法とその特徴を紹介します。ドラッグストアに並んでいるシャンプーの表示を、一度確かめてみてください。

## シャンプーの洗浄剤の特徴比較

\*成分別で表記している「塩」は、「ナトリウム」などのカウンターカチオンの総称を表しています。

	硫酸・スルホン酸系 シャンプー	石けん系 シャンプー	アミノ酸系シャンプー		お酢系 シャンプー
			グルタミン酸系	タウリン系	
泡立ち					
洗浄力					
髪・頭皮への やさしさ					
カラーの色持ち					
代表的な成分例*	ラウレス硫酸塩 オレフィン(C14-16)スルホン酸塩	石けん素地 ヤシ脂肪酸塩	ココイルグルタミン酸塩	ココイルメチルタウリン塩	ラウレス-3酢酸塩

## 洗浄剤の特徴を読み取り シャンプー選びを

国内で販売する化粧品には表示に関するいくつかのルールがあります。その一つに、その製品に配合されている成分をすべて記載する「全成分表示」があります。しかし、関心をもってそれらの成分を確認しても、どれが、何の目的で配合されているかはなかなかわかりません。洗浄力と安全性を両立させることが難しいシャンプーは、肌、髪への刺激と常に隣り合わせ。全成分表示から特徴を読み取り、肌を傷めないシャンプー選びのポイントを紹介いたします。

シャンプーの機能を左右する成分は、全成分表示では2~5番目(水の次から)に記載されている洗浄剤です。この洗浄剤は泡立つ界面活性剤のことで、これが何であるかでシャンプーの安全性が決まります。試しに、ドラッグストアなどで販売されているシャンプーの全成分を見てください。市販さ

れている大半のシャンプーで「ラウレス硫酸Na」という成分が含まれていることが確認できるでしょう。これは「硫酸系」洗浄剤の代表的な成分で、洗浄力は高いものの、髪・頭皮への刺激が高く、毎日使うには適しません。『スルホン酸』と表記されている洗浄剤も構造的には硫酸系洗浄剤の部類に入り、特徴も同じです。このような衣類用洗剤にも配合されている刺激の強い硫酸系洗浄剤を使用しているものが、髪だけでなく顔や体にも悪影響を与えるのです。

## 洗浄力と安全性が◎なのは お酢系シャンプーだけ

また、安全性が高いと説明する化粧品会社が多い「石けん系」(アミノ酸系)も問題を抱えています。石けん系は、頭皮への刺激は問題ありませんが、髪で使用すると、すすぎ時に石けんカスが発生し、髪の指通りを妨げ、摩擦によって髪の毛を傷めてしまうという危険性があります。一方のアミノ酸系洗浄

剤は、単体では泡立ちが弱いため、洗浄力を底上げする目的で、硫酸系洗浄剤をミックスしたり、数種を大量に配合して販売されています。アミノ酸は、髪や頭皮などに残りやすく、大量のアミノ酸系洗浄剤の使用は、カユミなどが発生するリスクをはらんでいます。モアコスメティックスは、これら3つの洗浄剤の刺激度のデータを学術雑誌等で発表する予定です。

一方、モアコスメティックスが特許を取得している「お酢系」洗浄剤は、少量でも豊かな泡立ち、高い洗浄力を持ち、皮膚にも髪にも低刺激。カラーリング

の色持ちもよいと、すべての項目で◎評価。洗浄力と刺激のバランスが難しいシャンプーでも、お酢系洗浄剤なら、髪、頭皮を傷めずにしっかりと汚れを落とせることは一目瞭然です。

そのうえ、お酢系洗浄剤は分解性が高く、環境にもやさしいシャンプーです。

## 全成分表示の一例

成分: 水、ラウレス硫酸Na、ジステアリン酸ナトリウム、ココミドプロピルベタイン、塩化ナトリウム、ココミドMEA、ヒアルロン酸ヒドロキシプロピルトリモニウム、加水分解コアラゲン、スクワラン、酢酸トコフェロール、アルキニルシメチコン、シメチコン、アミノ酸系界面活性剤、グリセリン、セチルアルコール、セチルトリモニウムクロリド、セチルトリモニウムクロリド、キサンタンガム、PPG-7、クエン酸、カルボマー、ドデシルベネン、スルホン酸TEA、ラウレス-4、ラウレス-23、ホロキサン-407、トリセセス-12、PEG-4、EDTA-2Na、TEA、水酸化Na、安息香酸Na、メチルパラソキシメチルクロロイソシアリルアン、香料、カラメル

**知っているか? 化粧品全成分表示のルール**

①原則として配合している成分すべてを表記する(原料に含まれるごく微量の防腐剤などは表示する義務はない)。

②記載する成分名の順番は、製品中で配合量の多い順に記載する。ただし、1%以下の成分及び着色剤については互いに順不同でよい。

全成分をしっかりと確認される方でも、ルール②の1%以下の特例が抜けており、化粧品全成分表示はすべて多い順に記載されていると勘違いされている方が多いようです。

## 実は危険な成分が含まれるトリートメント

# 皮膚刺激指数2.5のトリートメントはありえない。 イオン中和により、24時間皮膚パッチテストクリア の安全・安心を証明!!!

シャンプーだけでなく、髪を保護するトリートメントも頭皮に刺激を与えている可能性があります。トリートメントの機能や配合されている危険な成分を、おさらいしておきましょう。

## シャンプーの洗浄剤と同様に トリートメントにも 注意する成分がある

マイルドな印象が強いリンスやトリートメントなどの毛髪保護製品。汚れを落とす目的でつくられたシャンプーと比べても、安全性なんて意識したことがないという方も多いはず。しかし、トリートメントにも、肌(頭皮)の刺激となってしまうカチオン界面活性剤(プラス(+))イオンを持った成分が配合されています。この成分は、毛髪に吸着し、静電気の発生を防ぎ、なめらかな指通りに仕上げてくれる毛髪保護成分ですが、一方で強い殺菌力を持った成分でもあるのです。

そもそも、毛髪保護製品に求められる機能としては、①傷んだ髪、頭皮に油分などの栄養を与え、健やかな状態に導く【栄養補給・ダメージ修復機能】、②髪をなめらかにし、静電気を防止し、まとまりをよくさせる【表面保護機能】、の2つがあげられます。

①【栄養補給・ダメージ修復機能】については、セタノールやエステル油、植物油などの油剤や各種植物エキス類などがあげられ、これらはボディケア用途で使用されるクリームなどに配

合されている成分と共通で、刺激となる可能性がほぼない成分といえます。

②【表面保護機能】目的で配合される成分の代表的なものとして、シリコンとカチオン界面活性剤があります。1ページでも紹介したように、悪いイメージをもたれがちなシリコンですが、お肌に直接的に刺激を与えるということは決してありません。シリコン類は高いコーティング機能を持ち、肌への刺激の少ない非常に優れた成分です。髪に使用する製品だけでなく、クリームやUVケア製品などのお肌に使用する化粧品に多く使用されています。

## 髪を保護する カチオン界面活性剤も 殺菌性が肌刺激となる

シリコン油とならび多くの製品で配合されるカチオン系界面活性剤。これは、毛髪保護製品が基本機能を発揮するうえで、最も重要な役割をもつ成分といえます。

毛髪(特にダメージ毛髪)は水にぬれたときにマイナス(-)のイオン(アニオン)を帯びるため、プラス(+))のイオン(カチオン)をもった成分は毛髪にしっかりと吸着し、水で流しても表面に残り、コーティング

効果が持続します。

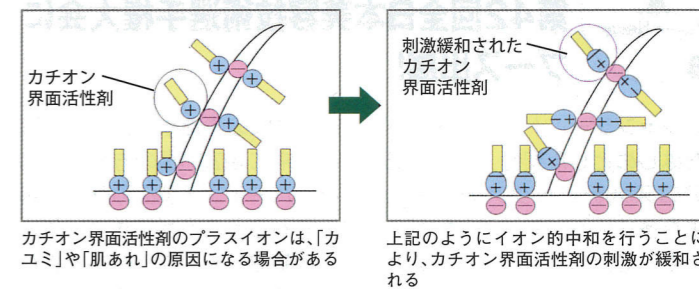
そのため、リンス剤というジャンルが誕生して以来、下記のようなかチオン界面活性剤が多用されてきました。しかし、この成分は、実はシャンプーに配合されている洗浄剤(アニオン界面活性剤)よりも殺菌効果が高く、欧州などでは目的・用途ごとに配合上限が定められているほどです。そのため、このカチオン界面活性剤の配合量や、刺激をどのように緩和させているのかが、トリートメント選びの大きなポイントとなります。

刺激の軽減のため、単純にカチオン界面活性剤を配合しないという手段もありますが、それでは、本来の表面保護機能を満足させられることは難しいのが実情です。

モアコスメティックスでは、トリートメントの風合い(機能面)は一切妥協をせずに、カチオン界面活性剤の刺激を両性界面活性剤(+と-の両方のイオン特性をもった成分)で中和するという、他にはない発想で刺激を軽減しています。その安全性については、洗い流す製品では普段実施されることのない第三者機関による「24時間閉塞ヒトパッチテスト」を敢行。その結果、驚くほど低い「皮膚刺激指数2.5」の安全品であることが確認されました。これは、一日つけっぱなしの普段使いのleave-in製品(水で洗い流さないもの)で確認する試験と同じ条件でも、刺激とならなかったことを示しています。

## 代表的なカチオン界面活性剤

セチルトリモニウムクロリド・ステアールトリモニウムクロリド・ベントリモニウムクロリド・ジステアールジモニウムクロリド・ステアリン酸ジエチルアミノエチルアミド

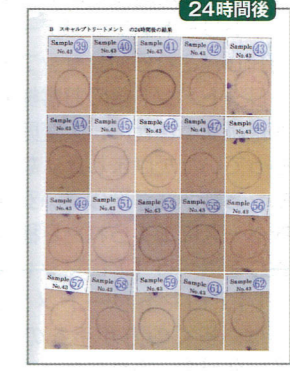


## バーデンス スカルプトリートメント



180gチューブ 1,800円(税抜)  
500gボトル 4,000円(税抜)  
400g詰め替え用フィルムサンプル 2,900円(税抜)

No.	性別	年齢	皮膚刺激指数	判定
01	M	20	0.0	安全品
02	M	20	0.0	安全品
03	M	20	0.0	安全品
04	M	20	0.0	安全品
05	M	20	0.0	安全品
06	M	20	0.0	安全品
07	M	20	0.0	安全品
08	M	20	0.0	安全品
09	M	20	0.0	安全品
10	M	20	0.0	安全品
11	M	20	0.0	安全品
12	M	20	0.0	安全品
13	M	20	0.0	安全品
14	M	20	0.0	安全品
15	M	20	0.0	安全品
16	M	20	0.0	安全品
17	M	20	0.0	安全品
18	M	20	0.0	安全品
19	M	20	0.0	安全品
20	M	20	0.0	安全品



トリートメントを24時間つけっぱなしでも「+判定(明らかな紅斑)」以上の判定はなく、「±判定(わずかな紅斑)」が1名。

## バーデンス スカルプトリートメント 皮膚刺激指数: 2.5 (安全品)

18歳以上の男女20名で「24時間閉塞ヒトパッチテスト」を実施。専門の皮膚科医により紅斑や浮腫の度合いを判定・点数化し、皮膚刺激指数を算出。

皮膚刺激指数	判定
5.0以下	安全品
5.0~15.0	許容品
15.0~30.0	要改良品
30.0以上	危険品